

イデックスオイルレポート ~For a month~

機新出光

【月次概況】

- 第1週、2/7のWTI原油は、先週比1.53ドル安の71.0ドルとなった。原油先物相場は、米政権による対イラン制裁の発表を背景に供給不安から買われ、4日ぶりに反発した。米財務省は6日、イラン産原油の中国向け輸送に関与したとみられる一部の個人やタンカーに制裁を科すと発表。トランプ米大統領はイランの核開発阻止に向け「最大限の圧力」政策を復活させる覚書に署名している。
- 第2週、2/14のWTI原油は、先週比ドル0.26安の70.74ドルとなった。ベッセント米財務長官は14日、イラン産原油の輸出量を現行の水準の10%未満まで削減する方針を表明。トランプ氏が復活させた対イラン制裁を強化する「最大限の圧力」政策の一環とみられる。
- 第3週、2/21のWTI原油は、先週比0.34ドル安の70.4ドルとなった。S&Pグローバルが午前発表した2月の米製造業購買担当者景況指数(PMI)速報値が51.6と前月から上昇。市場予想を上回り、8カ月ぶりの高水準となった。ロシア政府は週初、ウクライナによるドローン攻撃を受け、パイプライン運営会社カスピアン・パイプライン・コンソーシアム(CPC)が運営する送油管経路のカザフスタン原油供給が減少したと明かした。
- 第4週、2/28のWTI原油は、先週比0.64ドル安の69.76ドルとなった。トランプ米大統領は前日、予定通り3月4日にカナダ、メキシコからの輸入品に25%の関税を課す方針を明らかにし、中国には、2月4日に発動した10%の追加関税にさらに10%を上乗せすると表明した。トランプ米政権の関税発動が世界経済の減速につながり、エネルギー需要の後退につながるとの懸念から、相場は終日マイナス圏で推移した。

	2月平均	WTI原油	71.21ドル	前月比	-3.89ドル	為替 1ドル	153.02円	前月差	-4.52円
--	------	-------	---------	-----	---------	--------	---------	-----	--------

日付	補助金	変動幅	変動幅
2/1~2/5	20.5	-2.5	-2.5
2/6~2/12	17.4	-2.5	-2.5
2/13~2/19	13.7	-3.0	-3.0
2/20~2/26	13.1	±0	±0
2/27~2/28	12.5	±0	±0

【単位: 円/KL】

メニュー価格推移	0.5HPP		ENEOS LS船用燃料油基準価格	
	2024年10-12月C重油決定価格	91,120	93,120	91,120(メニュー)+ 2,000(プレミアム)
	2025年1-3月C重油仮価格	93,900	96,240	93,900(メニュー)+ 2,340(プレミアム)
	2025年1-3月C重油決定価格			

内航燃料油価格推移	適合C重油		A重油	
	2024年10-12月C重油決定価格	98,520	104,000	
	2025年1-3月仮価格	101,640		
	2025年1-3月決定価格			

【単位: 円/KL】

CIF価格推移	年/月	9桁速報	原油CIF価格	通関CIF	為替レート	原油CIF価格
			円/kl	ドル/bbl	円/ドル	前月比
	25/1	9桁速報	75,728	76.57	157.23	2,367
	25/2	最終予測	78,619	80.81	154.67	2,891
	25/3	展望	77,250	80.80	152.00	-1,369
25/4	展望	76,643	81.23	150.00	-607	

【次世代エネルギー】〈大阪ガス、eメタン量産の追い風に 新エネ計画で推進方針〉

18日に閣議決定された次期エネルギー基本計画では、水素やアンモニアとともに「eメタン」を次世代エネルギーに位置付けた。二酸化炭素(CO2)と水素から合成したメタンで、都市ガスの主成分となる。eメタン関連の技術開発では大阪ガスが先行している。海外を含めて量産化に向け取り組んでおり、国の方針が追い風となる。

エネルギー基本計画ではeメタンについて「2030年の基盤技術の確立、40年代の大量生産技術の実現を目指し技術開発に取り組む」と明記した。eメタンに関わるCO2については、燃焼時の排出分と合成時の回収分が相殺され、CO2の実質排出ゼロにつながるエネルギーとされる。今回の基本計画ではガス管など都市ガスのインフラ網を活用できる点を踏まえ、eメタンの実用化に向けた投資環境の整備にも触れている。温暖化ガス排出削減の価値をどう評価するかなど、制度面を整える方針も打ち出した。大ガスは1000億円以上を投じて日本に供給するeメタンの量産設備を米国に設置する計画を掲げている。ネブラスカ州やワイオミング州を候補地としている。日本国内でもINPEX、ENEOSと量産に向けたプロジェクトをそれぞれ立ち上げている。

大ガスが現在注力するのが、効率的な量産技術の確立だ。どれだけコストを低減できるかが普及のカギを握る。国の方針としてeメタン推進が打ち出されたことで、各方面で関連技術の開発が進むとみられる。大ガスにとっては、外部連携の重要性も増すこととなる。

出典: 日経電子版 <https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUF175LE0X10C25A2000000/>

【3月価格変動要因】

●需要: 米国の消費者信頼感大幅に悪化。雇用統計は非農業部門雇用者数が前月比減速。ただし過去2カ月は合わせて10万人の上方修正となっており、米労働市場は引き続き堅調との評価は変わらず。失業率も2カ月連続の改善。

中国は指標弱含み。一方株価は財政出動期待を背景に底堅く推移。1月の総合PMIは50.1と大幅に低下(12月52.2)。好調だった前月の反動に加え、春節休暇も影響。製造業は生産・受注とも悪化し5カ月振りの50割れ。関税を控えた駆け込み輸出の動きが一巡したと見られる。非製造業も悪化。春節の旅行需要を受け輸送、宿泊、飲食が拡大した一方、労働者の帰郷を受け建設業が減速。

●供給: ロイター報道によると、OPEC+の関係者関係者8人は、原油市場を巡って強弱材料が入り交じっていることが4月の生産方針決定を極めて複雑にしていると明らかにしている。トランプ米大統領がベネズエラとイラン、ロシアに導入した新たな制裁措置を受け、世界の原油供給状況を把握するのに苦慮していると説明。アラブ首長国連邦(UAE)が生産能力増加を活用することに熱心で、ロシアと同じように増産を進めたいと考えているという。これに対し、サウジアラビアを含めた他のメンバーは増産の延期を支持しているとされ、不透明感が強い。

●リスク資産・金融市場: リスクオフの展開。2月前半は米株式市場も高止まりを見せるも月後半からは米経済の弱含みが示され軟調な展開を見せ、1月の上昇分の半値戻しまで調整が入っている。トランプ関税の話題が引き続き相場の不透明感を高めている状況は変わらず。引き続き調整局面か。今後の米経済指標動向が注目される。なおBrentと米株市場の相関は高まりつつある。

<1ヶ月価格見通し> (単位: US/bbl)

	Brent	WTI
High	77	74
Average	72	69
Low	67	64

<3ヶ月価格見通し> (単位: US/bbl)

	Brent	WTI
High	79	76
Average	73	70
Low	67	64

日付	国	3月経済指標カレンダー	日付	国	3月経済指標カレンダー
3	ユーロ	2月消費者物価指数	17	米国	2月小売売上高
3	米国	2月ISM製造業景況指数	19	日本	日銀金融政策決定会合、終了後政策金利発表
5	米国	2月ADP雇用統計	19	日本	植田和男日銀総裁、定例記者会見
5	米国	2月ISM非製造業景況指数	19	ユーロ	2月消費者物価指数
6	ユーロ	欧州中央銀行(ECB)政策金利	19	米国	米連邦公開市場委員会(FOMC)、終了後政策金利発表
6	ユーロ	ラガルド欧州中央銀行(ECB)総裁、定例記者会見	19	米国	パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長、定例記者会見
7	ユーロ	10-12月期四半期域内総生産(GDP、確定値)	21	日本	2月全国消費者物価指数
7	米国	2月非農業部門雇用者数変化	25	米国	2月新築住宅販売件数
7	米国	2月失業率	27	米国	10-12月期四半期実質国内総生産(GDP、確定値)
7	米国	2月平均時給	28	米国	2月個人消費支出
11	日本	10-12月期四半期実質国内総生産(GDP、改定値)			
12	米国	2月消費者物価指数			